

演題名：ヤギの筋肉からのトキソプラズマの分離

発表者名：○喜屋武向子 平良雅克 山元朝香 安座間明日香

発表者所属：北部食肉衛生検査所

## 1. はじめに

トキソプラズマ（以下Tp）症は人獣共通感染症であり、ヒトへの主な感染経路のひとつとしてTp感染獣肉の加熱不十分または生食があると考えられている。これまで各種家畜の抗体検査によるTp浸潤状況が報告されているが、ヤギの抗体保有率は特に高い。本県ではヤギの生食が好まれていることからTp摂取が懸念されてきた。しかし、ヤギのTp症に関する報告は少なく、抗体を保有しているということが可食部位におけるTpの存在を示すものなのかを検証することが必要だと思われる。そこで今回、と畜場に搬入されTp抗体陽性を示したヤギの筋肉からTp分離を試み、あわせて筋肉中シストの温度（低温）に対する抵抗性についても検討したので、その概要を報告する。

## 2. 材料および方法

(1) 材料 2008.10月～2009.1月にB食肉センターに搬入されたヤギのうち54例についてラテックス凝集反応（トキソチェックMT栄研）によるTp抗体検査を実施し、抗体価 $\geq$ 256のヤギ13例の頭部筋肉約50gを材料とした。

(2) 方法 マウス接種による原虫分離法

- ① 採取した筋肉を2等分し、4℃および-20℃で1日保存した後、10倍量のトリプシン加滅菌生理食塩水で消化し乳剤を作成。
- ② 筋肉乳剤1mlをマウス腹腔内に接種し約4週間観察。およそ1週間毎に採血し抗体価を測定。
- ③ 発症して死亡するか、抗体上昇を示し、脳内にシストまたは腹水中にタキゾイトを確認したものを分離陽性とした。

## 3. 結果

4℃保存したTp抗体陽性ヤギの筋肉13例中10例（76.9%）からTpが分離された。-20℃からは分離されなかった（0/9）。分離した10例において脳シストのみ確認したのは5例、腹水中タキゾイトのみ確認したのは2例であり、どちらも確認できたのは3例であった。感染マウスの症状は、立毛、腹水貯留、沈うつ、チアノーゼ、努力呼吸等様々であった。多くは症状を呈した後回復したが、4例については死亡した。

## 4. 考察およびまとめ

ヤギのTp症については不顕性感染が多いと言われているが、今回の結果も同様に、外見上健康で内臓にも異常が認められない抗体陽性ヤギの筋肉中に感染力のあるTpが高率に存在することが証明された。その分離率は76.9%であった。近年、本県ではと畜されるヤギの約半数が抗体陽性という報告があり、今回の調査結果とあわせて考えると、ヤギ肉の生食によるTp感染が懸念されるが、冷凍することで感染のリスクをコントロールできる可能性が高いことが示唆された。